市民研通信。41



2017年3月12日ワークショップ「いつまでも美味しく食べるために~飲みこむ力と老いを考える~」で試食した「嚥下食」

- ●まちの元気・まちの健康を創発する住民交流とは
- ●食育の新しいアプローチを考える ●ナノマテリアル vs 環境中の超微小粒・
- ●はしもと君のキテレツな節電(?)活動報告 ●エジンバラ大学滞在報告



市民研へのご入会/ご寄付のご案内

この『市民研通信』に紹介されている記事論文など、市民研の活動成果は、どなたであっても無償で読んでもらえるように、ホームページですべてを公開しています。市民研では、こうした非営利・完全公開の趣旨に賛同し支えてくださる方々に、ご入会やご寄付をお願いしています。

ご送金・ご入会・ご寄付につきましては以下のやり方でお願いしています。

●100円単位の送金 100円単位のカンパや少額の送金(郵送費など)にご利用ください。

市民科学研究室の新しいホームページのメインメニューに「ご支援のお願い」があります。そこから「市民研オンラインショップ」のサイトにつながります。そのなかに、「一口100円ご送金」のカートがありますので、ご利用ください。

●**会員登録** 年会費を送金して次のいずれかの会員になることができます。

★レイチェル会員……年会費 10,000円 (総会における議決権あり) ★ダーウィン会員……年会費 3,000円

会員になると、

- ・市民科学講座など市民研主催のどのイベントでも参加費 (資料代) が半額になります (ただし市民科学講座Aコースもしくは飲食の提供を伴うイベントについては「半額」は適用されません)。
- ・市民科学研究室所蔵の書籍・文献資料や映像資料を借りることができます。
- ・事前にで連絡いただければ、u-stream配信をすることになるイベントについては、それへのアクセス情報をお伝えします。
- ・事前にご連絡いただければ、各研究会のほぼ毎月行われる会合にskypeで参加できます。
- ・レイチェル会員には市民研が今後発行する有償の出版物などがすべて無償で送付されます。

●ご寄付 一口1,000円から受け付けております。

ご送金の方法は以下のいずれかでお願い致します。

郵便振替………口座加入者名:市民科学 振替口座番号:00160-4-608503

オンライン決済………市民研ホームページの「市民研オンラインショップ」から

Fveni

7月23日(日)と8月6日(日)に 「発酵」をテーマに子ども料理科学教室

酢、醤油、味噌、味醂などの調味料や納豆、鰹節。毎日私たちが食べているものの中には「醗酵」の恵みを受けたものがたくさんあります。それらの食べ物をとりあげて、身近な微生物の存在について、クイズや実験、調理実習を通じて地球上で一番小さな生き物(微生物)の大きな力を探っていきます。

- ●東京都目黒区の自由が丘にある、伝統ある料理学校「魚菜学園」で、市民科学研究室の子ども料理科学教室の特別版を、7月23日(日)に実施することになりました(午前の部、午後の部の2回)。「発酵という魔法―小さな生物の大きな力― 子ども料理科学教室・夏休み自由研究スペシャル」です。対象は小学生です(小学校1年生から3年生の場合は、保護者同伴での参加をお願いします)。夏休みの自由研究に生かせる、非常に楽しい中身になっています。
- ●また、2015年に1年をとおして10回の講座を共催したNPO法人「ポラン広場」と、8月6日(日)の午後に東京都立川市にある「女性総合センター・アイム料理実習室」で同じく「発酵」をテーマに、小学生・中学生を対象に定員30名で実施します。

お問い合わせ&お申込みはそれぞれの団体のホームページからお願いします。



Information

・会員期間の二期制の導入 ・『通信』のメール配信 ・渋谷「光塾」会場にした共催イベント制

5月13日に行われました2016年度市民研総会の審議を経て、市民研の運営に関わってこの6月からいくつかの新しい仕組みを採用することになります。

●会員期間の二期制

会員はどの月に入会(あるいは入金)した人であっても、今後はすべて「1月入会・入金」(直近で遡った8月から1月の期間での入金・入会に対して)と「7月入会」(同様に2月から7月に対して)の2つで区分することとします。したがいまして、今後はどの会員も会費が切れる期限は毎年「6月末」か「12月末」かのいずれかになります。各会員に対してはそれぞれがどちらの会員期間に属するかを記した説明書を送付していますのでご確認ください。

●『市民研通信』のメール送付への切り替え

『市民研通信』は今後会員全員に紙版を郵送するのではなく、各会員に配信される電子メールから、これまで各記事論文をダウンロードしてもらったのと同様に、軽めのPDFファイル(A3 フルカラーの裏・表)をダウンロードしていただくことになります。ただし、電子メールをふだんあまり使わない方、紙版を手にして読みたい方、そして『市民研通信』を10部以上いろいろな所で配ったり置いたりしていただける方には、従来どおり紙版を郵便させていただきます。各々の方のご希望を確認する返信用紙(フォーム)を添えましたので、お返事いただければと思います。

●渋谷「光塾」を会場にした市民研との共催イベント

渋谷駅新南口出口から歩いて1分のところにある「光塾 COMMON CONTACT 並木町」。机なしで50人、机を入れた場合は40人くらいが目いっぱいの小さい会場ですが、非常に心地のよい場所です。このイベント会場の会場費と当日の受付業務を市民研が受け持つ形で、「科学・技術と社会」に関連したテーマでのイベントを共催で組むことができます。共催を希望される方は、いつでもご連絡ください。

Fvent

「十一人劇場」第4,5,6回

7/8:もはや戦後ではない 6/3:シリアスゲーム体験 8/12:東京オリンピック

市民科学研究室事務所の共有スペースを使った「十一人劇場」のお知らせです。どなたでもご参加いただけます。定員が11名ですので、参加を希望される方は必ず、市民科学研究室まで予約の連絡を入れてください。詳細は市民研ホームページをご覧ください。。

●7月8日(土)14時から

蘇音カフェ第二回

vol.1の続き・後半 「もはや戦後ではない」 出演&進行:瀬野豪志(「蘇音」代表)

●7月15日(土)18時から

カードを用いたシリアスゲームを体験してみよう! 出演&進行:上原龍 下川修二 上田昌文

●8月12日(土)14時から

蘇音カフェ第三回vol.2「東京オリンピック」

出演&進行:瀬野豪志(「蘇音」代表)







〒113-0022 東京都文京区千駄木 3-1-1 団子坂マンション公園側棟 **☎** 03-5834-8328 / fax. 03-5834-8329 renraku@shiminkagaku.org / www.shiminkagaku.org

NPO 法人 市民科学研究室

健康まちづくりフェスタin 文京&目黒 ワークショップ まちの元気・まちの健康を創発する住民交流とは

水戸市、大田区、草加市、川崎市、浦安市……いろいろな地域で、これまでにない形の、行政と市民の協働、住民の自発的な集いや交流が生まれ、介護予防や健康増進の確かな「共助」が築かれつつあります。そうした地域からゲストを数名お招きし、「まちの元気」を生み出すための知恵やノウハウを共有して、よりよい医療・保健・福祉の実現に向けた確かなヒントが得ることを念頭に、次の3人のゲストを招いてのワークショップを開催した。その報告を全文掲載する。……

◆ゲスト◆

朝日光一郎さん(在宅医療・介護の専門職が地域住民に寄り添う地域デザイン「水戸在宅ケアネットワーク」) 澤登久雄さん(おおた高齢者見守りネットワーク「みまーも」/東京都大田区地域包括支援センター入新井) 服部満生子さん(「みんなの保健室 陽だまり」/埼玉県草加市)

⇒続きは市民研 HP で



Overseas Document 翻訳: 永瀬ライマー桂子

ザルツブルグ市のUMTS通信網:

技術的に送信電力を低くし最適化した、市全域を網羅する基本的サービス

私たちの身の回りの電磁波は、周波数の違いによって「低周波」と「高周波」に区別するのが一般的ですが、その高周波はいわゆる「電波」の帯域を含みます。人体への影響を考慮して世界各国でその規制値が設けられています。ただし、全世界で統一した規制が採用されているわけではなく、各国でとに、強制力のある規制であるもの、自主規制にまかされた「勧告値」、ある領域や対象については規定がないといった場合まで、じつに様々な規制の様態がみられます。規制値の厳しさでみても、ICNIRP(国際非電離放射線防護委員会)のガイドラインをそのまま導入するか準拠するかする国が多いとはいえ、その基準値よりもはるかに厳しい規制値を定めている国も少なくはありません。

このような状況のもと、「世界でも最も厳しい規制を持つ地域」として、しばしば言及されてきたのが、オーストリアのザルツブルグ州です。

ザルツブルグ州のGSMならびにUMTS (ともにヨーロッパを含む約200カ国・地域で利用されている携帯通信の規格)での予防的な勧告値として、

- ●1998年にはGSM規格に対して屋外で1.0µW/cm2
- ●2002 年にはGSM / UMTS規格に対して屋外で 0.001µW/cm2、屋内で 0.0001µW/cm2 という厳しい規制が提案され、法的拘束力こそないものの、その結果、2002年から 2003年頃にはザルツブルグではUMTSの携帯基地局の建設が見送られてきたようです。しかし、2005年には以下に訳出した文書にみるように、その規制そのものは廃止され、

曝露強度を低く抑えるよう最適化をはかりながら携帯通信サービスを全域に網羅する方向で動いています。(例えば2002年の時点で、市内各所でこの勧告値を超える値が計測されていた事実もあり、こうした実態は三浦正悦氏の報告に詳しい。)

規制値の決め方・生かし方を考える上で、この翻訳文書は参考になると思われます。…… (市民研・上田)

→翻訳文書は市民研 HP で



健康まちづくりフェスタin 文京&目黒 ワークショップ **食育の新しいアプローチを考える**

食育は、「知る」「技を身につける」、そして「行動を変える」ことを目的に行います。そのため、調理ノウハウはもちろん、食べ物がどこからきてどこに行くかなどを知る消費者リテラシー、健康がどう左右されるかを知るヘルス・リテラシー、そして自分がどう行動を変えるかがイメージできる内容を含むべきと考えられます。これをもとに食育の類型を考えてみると、調理、健康づくり、農業・生産現場などの現場体験、食問題の自覚を促す食の歪みの可視化、が挙げられます。これまでに食育の対象、方法、規模・頻度などは様々行われてきています。しかしながら実際に行動変容にどうつながっているかはまだ分かっていないところで、これからの課題と考えられます。

今回は、捉えている食の問題点、実際の活動、活動への参加者、参加者の反応、活動の課題、今後の展開などを、実際に食育の活動をされている5人の方にお話いただきました。その後、活動をもう一歩進めるための共通の課題として、①今届いていない方に参加してもらう方法、②担い手養成など広めてくれる人の増やし方、③学校などとのコラボレーション、④資金や集客などより良い運営方法、などについて最後ディスカッションをしました。……

◆話題提供者◆

麻生玲奈さん(食生活アドバイザー協会認定講師、日本大生物資源科学部非常勤講師(日本食文化史/おいしさの科学)) 近藤惠津子さん(NPO法人コミュニティスクール(CS)・まちデザイン 理事長)

小林友依さん(市民研・食の総合科学研究会) 田中由美子さん(子育てkitchenグループ) 武藤麻代さん(『学びの食卓』プロデュース)

⇒続きは市民研 HP で



Essav

橋本正明(市民科学者)

五輪の(笑)

~はしもと君のキテレツな節電(?)活動報告~

年々夏が暑くなっている。それと同時にゲリラ化著しい集中豪雨。明らかに10年前とは雨の降り方が劇的に変化してしまっている。主な原因として市街地の都市化に伴うヒートアイランドの影響が挙げられるが、その一端はエアコンや厨房などからの都市排熱、コンクリートなど熱伝導率の低く、蓄熱性の高い躯体構造物の熱輻射'図にある。

また他方では冬の温暖化とヒートアイランド、建築物群の気密・断熱性向上による熱帯・亜熱帯 性外来生物種の越冬による定着と生息域の拡大・北上は深刻な問題である。

東日本大震災直後の全国的な節電によるエアコン使用の抑制では、特に都市部での風通しの悪い密集した建築物間に滞留する熱が抑えられると共に住宅地では緑のカーテンにより建築物の蓄熱量が下がり、熱汚染が低減することで意外にも何とか夏をやり過ごすことができた。これは環境系外への熱放出に関して正のフィードバックが発生したことが考えられる。同様に冬期間における熱汚染の低減により熱帯・亜熱帯性外来生物種を封じ込め、駆除を容易にせしめることは防疫的観点において今後より重要性を帯びるに違いない。今まさにそのための抜本的な対策を講じねばならない時代が訪れているのではないだろうか。……

Express Wash

⇒続きは市民研 HP で



歴史の街エジンバラ

2この4月に東京に戻るまで、私はエジンバラ大学で研究を行っていました。エジンバラは英国北部に位置するスコットランドの首都で、ロンドンから電車で約4時間半の距離にあります。街の中心に位置するウェーバリー(Waverly)駅の北側は新市街(New Town)、南側は旧市街(Old Town)と呼ばれ、どちらもユネスコの世界遺産に登録されており、英国の中でも有数の観光地として知られる街です。街のシンボルとも言えるのは、崖の上にそびえ立つエジンバラ城で、そこからホリールード宮殿まで続くロイヤルマイルと呼ばれる一本道では、年間を通じて多くの観光客の姿が見られます。8月に開催されるフリンジ(Fringe)と呼ばれるフェスティバルでは大道芸などでも賑わうこの道ですが、ちょっと歩いてみると哲学者デイヴィッド・ヒューム(David Hume)や、経済学者アダム・スミス(Adam Smith)の銅像を見つけることができます。また、先ほど述べたウェーバリー駅は詩人ウォルター・スコット(Walter Scott)の同名の歴史小説にその名を由来しますし、世界を代表する推理小説「シャーロック・ホームズ」シリーズの作者アーサー・コナン・ドイル(Arthur Conan Doyle)が生まれたのもこのエジンバラで、長きにわたり思想や文学の発展に関わってきた街と言うことができるでしょう。そして、近年ではJ.K.ローリング(J.K. Rowling)がファンタジー小説「ハリーポッター」シリーズの第1巻「ハリーポッターと賢者の石」を執筆した場所としても知られています。……

⇒続きは市民研 HP で



英国エジンバラ大学のキャンパスにて

Overseas Document

開訳】 ナノマテリアルvs環境中の超微小粒子: 毒性学の知識を取り交わす機会

Environmental Health Perspectives Advance Publication として2016年11月に公開 五島綾子 上田昌文

五島廉輔

原題 Nanomaterials vs Ambient Ultrafine Particles: an Opportunity to Exchange Toxicology Knowledge

著者 Vicki Stone (Institute of Biological Chemistry, Biophysics and Bioengineering, Heriot-Watt University, Edinburgh, Scotland, UK) 他18名

【翻訳者からのメッセージ】

分子レベルで物質や粒子を操作できるという着想に基づくナノテクノロジーは21世紀前後からアメリカの国策としてスタートし、日米欧はナノブームに沸きました。しかし現在では、25年を経てナノテクノロジーとしてしっかりと科学的事実及び科学分野の一部となってきました。ナノテクノロジーは実質的に人間活動のあらゆる領域(健康管理、食物と栄養、水の浄化など)において現実世界の応用に伴って発展してきているからです。

しかし計画的にまたは不注意にヒトや環境へのナノマテリアルを幅広く導入しますと、有害な予期しない不都合な影響の可能性が高まってしまいます。本論文ではナノリスクに関して一貫して世界に先駆けて取り組んできた欧州の様々な専門家が結集し、数十年の論文に基づいてナノマテリアル、環境中の超微小粒子の毒性学に関する19の鍵となるレッスン(課題)を提示している貴重な論稿です。ナノ粒子の毒性は複雑で奥深く体内に侵入し、戦慄を覚える影響もうかがえます。

⇒続きは市民研 HP で

